

# 横浜市行動デザインチーム 設立から10か月の活動成果報告

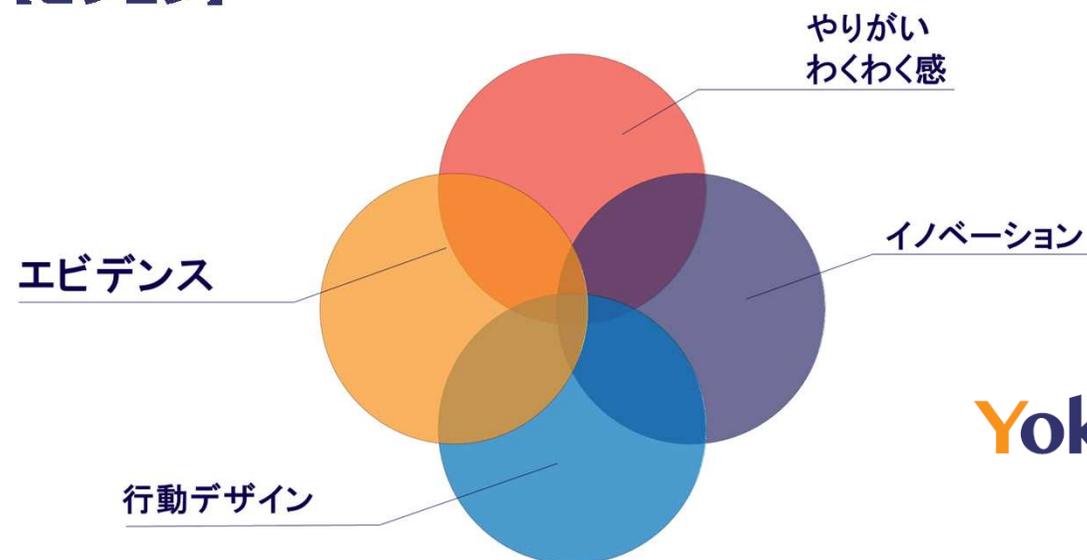
2019年12月26日 BEST連絡会議



# 横浜市行動デザインチーム（YBiT）とは

- **2019年2月設立**。横浜市有志職員11名が中心となり、アドバイザー等で構成する有志によるチーム。

## 【ビジョン】



ロゴはパッションを中心にイノベーションの風を起こし、周りへの好影響につなげることをイメージしたもの

**Yokohama Behavioral insights  
and Design Team**

# YBiTの歩み

- ・ マイルストーンとなるイベントを経て、進化・拡充

2019年

2月

5月

11月

12月

行動に着目した社会  
課題解決のための官  
民共働フォーラム

WISH &  
Halpern  
interview

行動経済学会

BEST連絡会議  
**本日**

YBiT 設立



# 月例研究会の概要

- **ペースメーカーとして、YBiTの活動は発展。**  
現時点で9回開催（YBiT前身を通算すると14回）



- **過去の研究会テーマ例**

## フレームワーク紹介、ワークショップ

- 英国BITのEAST®、BEAR「ナッジ活用ガイド」、OECD「BASIC」など
- ワークショップは防災、特定検診、市民通知など多数

## 他地域事例やマイルストーン達成後の報告・共有など

パネルディスカッション（国際シンポ後、2019振り返り）、因果推論、行動デザイン普及戦略/組織論、行動経済学会・公衆衛生学会等の学会報告、

初心者向けナッジ講座、その他他地域での実践事例の紹介など

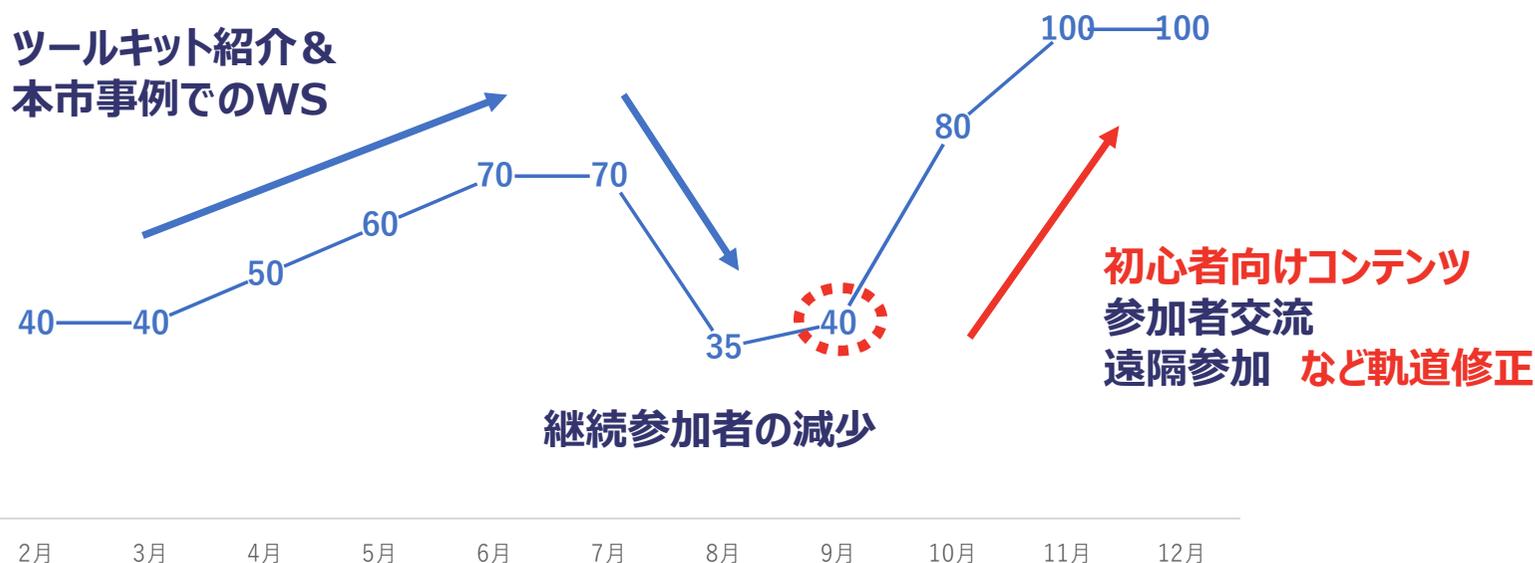
© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

# 月例研究会のコンテンツや構成の考え方

- 初心者向けコンテンツや参加者交流の充実、遠隔参加の導入等により、**参加者数は増加傾向**

※ 今後は、参加者一人一人の事例創出や共有、連携を主軸に。

## 【参加者数/月の変動イメージ】



© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

# ネットワーキング



- 懇親会も含め、参加者同士のネットワーキングやマッチングの場として機能

※省庁、全国自治体、アカデミア等が集うことでアイデアが生まれ、新たな連携にも



# 人材育成



- 研究会以外にも、横浜市内外で研修を実施。
- webサイトや動画コンテンツも充実させていく。

## 【webサイト】



※<https://ybit.jp>



## 【市内外での研修風景】



## 【動画講義】



※作成中

# ツールキット (EAST®)



- 様々なフレームワーク等から、その時々で最適なものを活用。
- 特にEAST®は、自治体職員が**日常的に実践**できる**実用性の高さ**が魅力。YBiTでチェックリストを**1枚にまとめ、公表中**。

## 【EAST®説明とチェックリスト】

### EAST®とは

- ✓ 行動変容を促す施策の検討時に活用できるフレームワーク（頭文字をとり、「EAST®」）
- ✓ これらは、英国の行動デザインチームが、**研究と学術文献に基づいて作成**
- ✓ 効果的な施策について考える際、シンプルで記憶に残るフレームワークを持つことが有用

<b>簡単に</b> (Easy)	E-1 デフォルト機能の活用 E-2 面倒な要因の減少 E-3 メッセージの単純化	<b>印象的に</b> (Attractive)	A-1 関心をひく A-2 インセンティブ設計
<b>社会的に</b> (Social)	S-1 社会的規範の提示 S-2 ネットワークの力の活用 S-3 周囲へ公言させる	<b>タイムリーに</b> (Timely)	T-1 介入のタイミング T-2 現在バイアスを考慮 T-3 対処方針を事前に計画



© YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of the YBiT.



※<https://ybit.jp>

～EAST®を活用した施策・事業設計のためのチェックリスト～

- ✓ 英国政府下の専門家チームが開発した「EAST」というフレームワークを基に作成
- ✓ EAST®は、科学的根拠及び実践に基づいた結果を導き出すため、政策における行動変容アプローチのスキームを整理したものであり、より位置で効果的な施策・事業展開が可能

※ 施策・事業展開チェックリスト

- 行動にその効果を明確にしたか
- 行動に必要となる状況を事前に自分自身で見て観察したか
- EAST®を活用し、上記を繰り返し、事業を洗練したか
- 効果検証の計画を立てたか

※ EAST®チェックリスト

Easy (簡単に)	
E-1	<input type="checkbox"/> デフォルト機能の活用 → 行動を妨げない、デフォルト状態になっているか
E-2	<input type="checkbox"/> 面倒な要因の減少 → 行動に必要な労力を減らしているか
E-3	<input type="checkbox"/> メッセージの単純化 → 動作指示は、単純で明確か
Attractive (印象的に)	
A-1	<input type="checkbox"/> 関心をひく → デザイン、利益・コストを懸念して、感情、人間関係に訴えているか
A-2	<input type="checkbox"/> インセンティブ設計 → 何らかのインセンティブを検討したか（金銭、心理、目標等）
Social (社会的に)	
S-1	<input type="checkbox"/> 社会的規範の提示 → 社会的規範（価値観、行動、期待等）に訴えかけているか
S-2	<input type="checkbox"/> ネットワークの力の活用 → 個人だけでなく、ネットワークへの介入も検討したか
S-3	<input type="checkbox"/> 周囲へ公言させる → 公言できるような仕組みを検討したか
Timely (タイムリーに)	
T-1	<input type="checkbox"/> 介入のタイミング → イベントや条件、状況が行動に与えるタイミングを検討したか
T-2	<input type="checkbox"/> 現在バイアスを考慮 → 単では効果のある費用・労力に影響されやすい習性を考慮したか
T-3	<input type="checkbox"/> 対処方針を事前に計画 → 特定のイベントに直前した際の対応方針を計画するよう促したか

EAST® is a registered trademark of Behavioural Insights Ltd.  
© Behavioural Insights Ltd 2016. Not to be reprinted, copied, distributed or published without the permission of Behavioural Insights Ltd.  
© The Behavioural Insights Team (2016) EAST Four simple ways to apply behavioural insights.  
(https://www.bis.gov.uk/publications/east-four-simple-ways-to-apply-behavioural-insights/)  
1910 (0000) 1/2016

## 【チェックリストの庁内活用風景】



© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

# ツールキット (BASIC等)



- 行動変容を妨げる**ボトルネックの特定や分析**が適切なナッジ選択の鍵。そのため、プロセスフロー型のBASIC等を活用。

【YBiTで活用するツールキット一例】



OECD  
『BASIC』



トロント大学  
『実務家のための  
ナッジ活用ガイド』



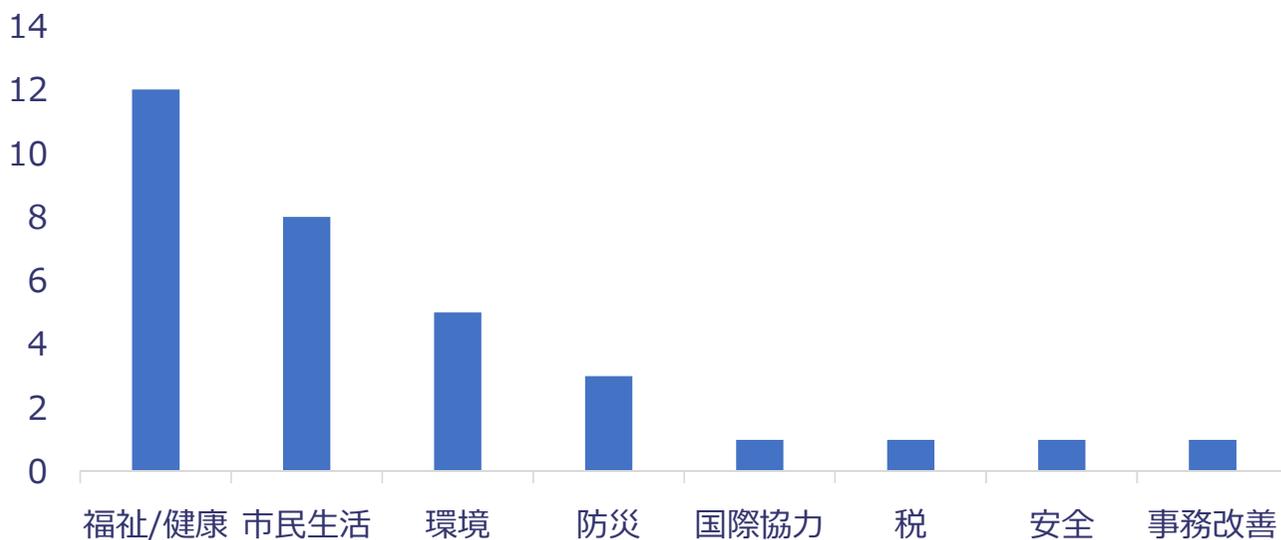
Ideas42  
『自治体への行動デザイン導入モデル』

# 事例創出



- 福祉/健康、市民生活、環境、防災などの幅広い分野において、現在までに約30件の事例に取り組む。

【分野別内訳】



【発生別割合】



# 事例創出からの学び

---

- **短期間で結果が出る事例を優先**
- **YBiTは伴走型の支援**
  - ※相談者自らボトルネック分析やナッジ考案を行うことで、持続的な展開へ
- **相談者のレベルや実情に応じて対応**
  - ※ナッジのすそ野を拡大しつつ、機会があれば学術的価値のある実証を行う。

# 事例創出エピソード4類型

## Top層から現場へ

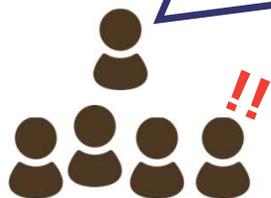
施策にナッジの要素を入れてみては。YBiT知ってる？

...という  
施策です。



① 事業説明をきっかけに

ナッジはコストもかからず効果的、  
素敵だ。皆でTRYしてみよう！



事業課

② 朝礼などから

## 現場での自発的な工夫

YBiTの資料を見て  
ナッジを試してみました！



市職員



③ 担当の改善意識から

EAST®チェックリストで  
通知案を考えよう！



YBiTメンバー

④ メンバー自ら実践や提案

# 体制論①（専門性）

- 専門性は**可能な限り内製化しつつ、外部アドバイザーで補完**

ナッジユニットを機能させるために必要な3つの専門要素（YBiTへ適用）

専門要素	必要な能力	市役所	外部	備考
行動科学	理論の理解, 実践力	○	◎	行政外部からの補完が容易
調査, 評価	統計知識, 政策現場での調査・評価経験	○	◎	アカデミアなどで補完しつつも, 行政内での内製化が必須
公共政策, 行政	行政の制度や予算, 議会・市民対応, 行政の意思決定の勘所等の把握	◎	△	リーダーや影響力のある行政官の支持が重要

（出所） Ideas42（2018）を参考に筆者作成

出所：地方自治体におけるナッジの実装に向けた体制構築と普及戦略  
 –横浜市行動デザインチーム（YBiT）の取組事例に基づく提案–（2019）

© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

## 体制論② (APPLES)

- YBiTの強みは、有志性（専門性、機動力、高いモチベーション等）
- 今後のカギは有志と公的組織の強い連動

ナッジユニット成功の条件（APPLES）と国内外ナッジユニットの比較

特徴	内容	YBiT (横浜市)	NY BDT (ニューヨーク市)	PBSI (フィラデルフィア市)
①Administrative Support	組織内（行政）のサポート	幹部サポートあり	あり（市長直轄組織への位置付け）	あり（市長直轄組織への位置付け）
②Political Support	政治的サポート	あり（市長）	あり（市長）	あり（市長）
③People	専門性や経験，情熱を備えた人材	外部専門家と連携	外部専門団体との連携	外部専門家（地元大学）との連携
④Location	組織的位置づけ	有志の活動	公式組織	パートナーシップから公式組織へ
⑤Experimentation	実証主義	RCT，準実験的手法	RCT，準実験的手法	RCT，準実験的手法
⑥Scholarship	アカデミアとの連携	密に連携	密に連携	密に連携

（出所）Halpern(2015), World Bank (2018)をベースに筆者作成

© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

出所：高橋他（2019）

# 参考：YBiTコアメンバー

- 公衆衛生、心理、統計、民間経験等の多様性・専門性を備え、高いモチベーションをもって取り組んでいます。

【David Halpernとの対談後の集合写真】



※写真はコアメンバーの一部

© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

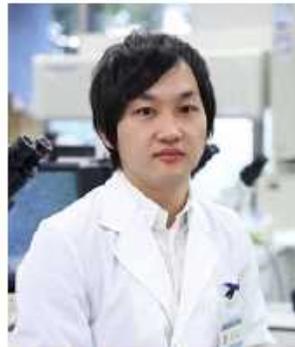
# 参考：YBiTアドバイザー



依田先生（京都大学）



大竹先生（大阪大学）



武部先生（横浜市大）



佐々木先生（京都大学）



村山先生（東京大学）



伊藤先生（シカゴ大学）



竹林先生（青森県立保健大）

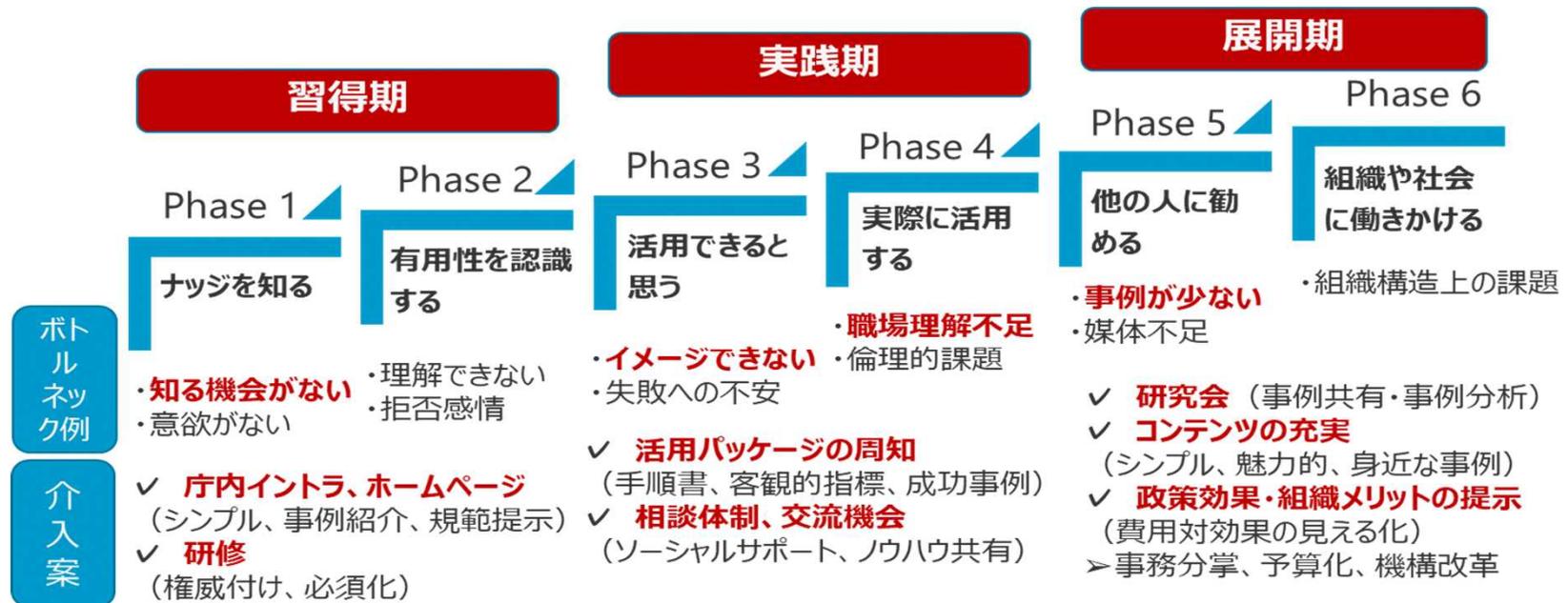


David Halpern（英国BIT責任者）とYBiT

© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

# 普及戦略論（全体像）

- YBiT独自の普及戦略モデルを構築。普及の課題を特定し、適切な介入を行うもの。



出所：地方自治体におけるナッジの実装に向けた体制構築と普及戦略

－横浜市行動デザインチーム（YBiT）の取組事例に基づく提案－（2019）

© 2019 YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

# 普及戦略論（フェーズ1～2）

- ・ ナッジの有用性を認識していない層や初心者を対象。
- ・ 研修やコンテンツ、ウェブサイトを通じた発信が有効。

## 習得期

### Phase 1

ナッジを知る

- ・ 知る機会がない
- ・ 意欲がない

### Phase 2

有用性を認識する

- ・ 理解できない
- ・ 拒否感情

ボトル  
ネック例

介入案

- ✓ 庁内イントラ、ホームページ  
(シンプル、事例紹介、規範提示)
- ✓ 研修  
(権威付け、必須化)



アドバイザー佐々木周作先生 自作の行動経済学講義。YBiTは制作協力。Youtubeにて全編公開中

<https://ybit.jp/archives/585>



アドバイザー竹林正樹先生のナッジ体感講座  
(YBiT研究会11月の様子)



# 普及戦略論（フェーズ3～4）

- ナッジを自分の仕事でも活用できると思い、実践するフェーズ。
- 類似の成功事例やツールキット、伴走型支援が有効。



## 【ツールキット例】

### EAST®とは

- ✓ 行動変容を促す施策の検討時に活用できるフレームワーク
- ✓ これらは、英国の行動デザインチームが、研究と学術文献に
- ✓ 効果的な施策について考える際、シンプルで記憶に残るプレ

<b>簡単に (Easy)</b>	E-1 デフォルト機能の活用 E-2 面倒な要因の減少 E-3 メッセージの単純化	<b>印象的に (Attractive)</b>
<b>社会的に (Social)</b>	S-1 社会的規範の提示 S-2 ネットワークの力の活用 S-3 周囲へ公言させる	<b>タイムリーに (Timely)</b>



© YBiT Ltd. Not to be reproduced without the permission of YBiT.

～EAST®を活用した施策・事業設計のためのチェックリスト～

- ✓ 英国政府下の88チームが開発したEAST®というフレームワークを基に作成
- ✓ EAST®は、科学的知見及び実践的知見を基に作成した、政府における行動変容アプローチのシステムを整理したものであり、より広範囲で効果的な施策・事業展開が可能

※ 施策・事業展開チェックリスト

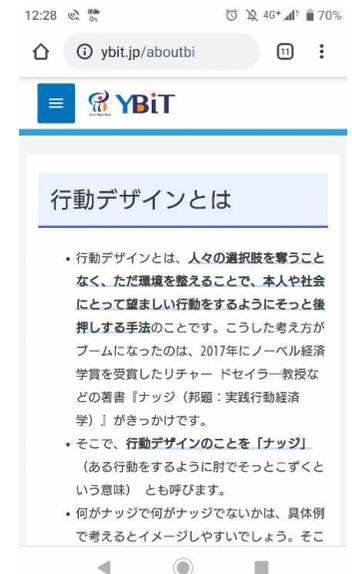
- 行動への効果を確認したか
- 行動に必要となる状況や自身の目で見て調査したか
- EAST®を活用し、上記を確認し、事業を洗練したか
- 効果検証の計画を立てたか

※ EAST®チェックリスト

<b>Easy (簡単)</b>	E-1 <input type="checkbox"/> デフォルト機能の活用 → 行動を起こしやすい、デフォルト状態になっているか
E-2 <input type="checkbox"/> 面倒な要因の減少 → 行動に必要な労力を最小限にしているか	
E-3 <input type="checkbox"/> メッセージの単純化 → 動作指示は、単純で明確か	
<b>Attractive (印象的に)</b>	A-1 <input type="checkbox"/> 関心喚起 → デザイン良く、利益・コストを際立て、感情・人間関係に訴えているか
A-2 <input type="checkbox"/> インセンティブ設計 → 何かのインセンティブを検討したか (金銭、心算、目標等)	
<b>Social (社会的)</b>	S-1 <input type="checkbox"/> 社会的規範の提示 → 社会的規範 (慣習、行動、期待等) に訴えているか
S-2 <input type="checkbox"/> ネットワークの力の活用 → 個人だけでなく、ネットワークへの介入も検討したか	
S-3 <input type="checkbox"/> 周囲へ公言させる → 公言できるような仕組みを検討したか	
<b>Timely (タイムリー)</b>	T-1 <input type="checkbox"/> 介入のタイミング → ツールキットや条件・状況が行動に与えるタイミングを検討したか
T-2 <input type="checkbox"/> 現在バイパスを考慮 → 意図せずおこなわれる費用・便益に影響されやすい可能性を考慮したか	
T-3 <input type="checkbox"/> 対策方針を事前に計画 → 特定のイベントに直前直後に実施した際の対応方針を計画するよう促したか	

YBiT logo and copyright notice at the bottom.

## 【webサイトコラム等】



# 普及戦略論（フェーズ5～6）

- ・ ナッジを他の人に広めたり、組織として推進するフェーズ。
- ・ 成功事例やエビデンス（費用対効果等）の創出&発信、自治体やアカデミアの枠を超えたネットワークの構築が有効。



## 【普及に向けた発展形の実施予定】

-  指南書などを書籍にして発信
-  自治体間の連絡会議
-  学会発表の紹介

# まとめ

---

- YBiTは、設立一年足らずだが、先進ナッジユニットの事例、ツールキット、体制、普及戦略等の蓄積を参考に、戦略的に活動。予想以上の成果を上げてきた。
- YBiTモデルは、専門性や機動力、モチベーション、ネットワーク力で強みを発揮。今後のカギは有志と公的組織の強い連動
- ナッジやEBPMに慣れ親しみ、すそ野を広げていくことが第一。チャンスがあれば学術的価値のある取組も実践。
- より高い次元でナッジ×EBPMを実現するためには、心理特性を踏まえたボトルネック分析、効果検証、倫理審査等が必要。



**ご清聴ありがとうございました。**

<https://ybit.jp>

